

科目名	老年看護学概論				
科目分類	専門分野Ⅱ	履修年次	1年次	履修時期	9月～12月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	老年看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	老年期にある対象の特徴を捉え、老年看護の概念と目的・役割を理解する。				
学習目標	老年期の意味や加齢による身体的、心理的、社会的変化を理解し、高齢会社の現状、高齢者のライフスタイルやニーズを知り、老年看護の概念と目標、役割を理解する。				
回	授業内容			授業方法	
1	ガイダンス 第1章 老いるということ、老いを生きるということ 1. 老いを学ぶ入口 2. 老いるということ			講義 グループワーク	
2	1章 老いるということ、老いを生きるということ 3. 老いを生きるということ ①老年期とは ②高齢者の発達課題 ③老いを生きる人々へのまなざし			講義	
3	第2章 高齢社会と社会保障 1. 高齢社会の統計的輪郭			講義	
4	①わが国の高齢化 ②高齢者のいる世帯 ③高齢者の健康状態 ④高齢者の暮らし			講義	
5	2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 ①高齢者とソーシャルサポート			講義	
6	②保健医療福祉システムの構築 ・保健医療福祉制度の変遷 ・介護保険制度の整備 ・高齢者医療の新しいしくみ ③高齢者を支える職種と活動多様化			講義	
7	3. 高齢社会の権利擁護 ①高齢者に対するスティグマと差別			講義	
8	②高齢者虐待 ③身体の拘束 ④権利擁護のための制度 ・成年後見人制度 ・日常生活自立支援事業			講義 グループワーク	
9	* 高齢者疑似体験オリエンテーション 高齢者疑似体験 ・加齢に伴う身体的変化を実際に体験し理解する。 * 詳細については、事前にオリエンテーションを行う。			演習 グループワーク	
10	第3章 老年看護の基盤 ①老年看護のなりたち ②老年看護の役割 ③老年看護に携わる者の責務 * 冬期休暇課題の提示			講義	
11	第4章 高齢者のアセスメント			講義	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
・ 12	1. 身体の高齢変化とアセスメント ①看護師が行うフィジカルアセスメント ②外皮系 ③感覚器系 ④循環器系 ⑤呼吸器系 ⑥消化器系 ⑦内分泌系 ⑧泌尿器系 ⑨運動器系	講義
13	第4章 高齢者のアセスメント	講義
・ 14	2. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント ①発熱 ②痛み ③掻痒(かゆみ) ④脱水 ⑤嘔吐 ⑥浮腫 ⑦倦怠感	講義
15	試験	
使用教材	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 3. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版	
参考文献	1. 老年看護学 概論と看護の実践 ヌーベルヒロカワ 2. 老年看護学 高齢者の看護の実践 ナーシング・グラフィカ	
成績評価の方法	筆記試験90% 授業態度・グループワーク参加態度・忘れ物・提出物の期限10%	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名	老年看護学援助論 I (高齢者の健康生活と看護)				
科目分類	専門分野 II	履修年次	2年次	履修時期	6月 ~7月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	看護師	実務経験	老年看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	高齢者が目指しうる最大限の生活機能の回復に焦点を当てた看護の役割・援助を理解する。				
学習目標	老年期にある対象の生活上の問題を理解し、看護を実践するための知識を得る。				
回	授業内容				授業方法
1	生活の基本となる日常生活動作 基本動作と環境の理解と看護				講義
2	日常生活活動(動作)の評価指標 転倒のアセスメントと看護				講義
3	廃用症候群のアセスメントと看護 食事・食生活に注目する意義				講義
4	摂食・嚥下機能のアセスメント 食事に対する看護 摂食・嚥下リハビリテーション 口腔ケアの技術演習				講義・演習
5	排泄ケアの基本姿勢 排泄障害のアセスメントと看護 排尿・排便障害のアセスメントと看護				講義
6	清潔の意義と高齢者に特徴的な変調と看護				講義
7	高齢者の生活リズムと整える看護 高齢者に特徴的な変調と看護 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害と看護 筆記試験				講義
使用教材	系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学 医学書院				
参考文献	1. 高齢者救急(急変予防&対応ガイドブック) 医学書院 2. 高齢者看護トータルナビ メディカル出版				
成績評価の方法	筆記試験 100点				

科目名		老年看護学援助論Ⅱ(疾病・障害をもつ高齢者の看護)			
科目分類	専門分野Ⅱ	履修年次	2年次	履修時期	5月～11月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	認定看護師 外部講師	実務経験	老年臨床実務経験あり		
科目目的	健康上の問題を持つ高齢者とその家族に対し、その人らしい生活を送るために必要な看護の役割・援助を理解する。				
学習目標	単元Ⅰ 1. 高齢者の特徴・疾病・障害をふまえ、健康逸脱からの回復期と終末期において高齢者とその家族を支える看護が展開できる。 単元Ⅱ 1. 認知機能の障害をもつ人や在宅高齢者に対する看護において、全人的理解ができる。 2. 生活・療養の場において、多職種と連携して、地域資源を活用した看護が展開できる。 3. 高齢者のリスクマネジメントでは、専門職として医療安全と災害看護を重視することができる。				
回	担当	授業内容			授業方法
1	看護師	単元Ⅰ 【導入】単元の基盤となる高齢者の特徴を再度学習するとともに、単元を通して必要な老年看護の視点・捉え方を確認 1. 加齢と老化・高齢者の特徴(復習) ・質問しながら単元の基盤となる高齢者の特徴を復習し共通理解を図る。 2. 老年看護における看護師の役割(復習) ・家族(祖父母・両親)が入院したら、自分が高齢者となり入院したら何をしてほしいかを各自話し合い、そこから必要な看護を具体化・イメージする。			講義 グループ・ワーク
2		1. 検査と看護 2. 栄養ケア・マネジメント ・スプーンテクニックの演習			講義 演習
3		1. 薬物療法と看護 2. 放射線療法・化学療法と看護			講義
4		1. 手術療法と看護			講義
5		1. 疾患をもつ高齢者への看護 1) 脳卒中 2) 心不全 3) パーキンソン病・パーキンソン症候群			講義
6		4) インフルエンザ 5) 肺炎 6) 感染性胃腸炎(ノロウイルス感染症) 7) 骨粗鬆症 8) 骨折 9) 褥瘡			講義
7		1. 終末期における看護			講義
8	認知症認定看護師	単元Ⅱ 6章 健康逸脱からの回復を支える看護 C. 認知機能障害のある高齢者の看護 ①うつ ②せん妄			講義
9		③認知症 ・認知症とは * 演習「生活支援の理解」 ・認知症の症状・認知症の診断・治療と予防 ・認知症機能および生活機能の評価			演習 講義 演習
10		・認知症の看護 ◎コミュニケーションの方法			講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	担当	授業内容	授業方法
11		* 演習「コミュニケーション技術の実際」 * DVD「一人の心を見つめるケア」 第9章 生活・療養の場における看護 A. 高齢者とヘルスプロモーション ・老年期のヘルスプロモーション・介護予防とヘルスプロモーション ・「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア B. 保健医療福祉施設および居住施設における看護 ①介護保険施設 ②地域密着型サービス③住まい C. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 ①家族の生活と健康 ②家族への援助 * 音読「手紙」 D多職種連携実践による活動	演習 講義
12		第10章 高齢者のリスクマネジメント A. 高齢者と医療安全 P406 セミナール 演習「転倒予防のための援助」 B. 高齢者と救命救急	講義
13		C. 高齢者と災害 * 演習 『高齢者の避難生活で考慮しなければならないことは？』 試験	講義 演習 グループ・ワーク
14			講義 演習 グループ・ワーク
使用教材		1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院	
参考文献		授業時に資料配布	
成績評価の方法		筆記試験と出席状況、授業態度、グループ・ワーク参加態度、忘れ物、提出物の期限	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名	老年看護学援助論Ⅲ(看護援助技術)				
科目分類	専門分野Ⅱ	履修年次	2年次	履修時期	9月～12月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	専任教員	実務経験	老年看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	健康上の問題を持つ高齢者とその家族に対して、看護実践に必要な看護技術を習得する。				
学習目標	1. 老年看護技術の特徴を理解する。 2. 老年看護に応用する看護技術の知識を理解する。 3. 老年看護過程と特徴を理解する。 4. 加齢による生活障害に関連して必要となる主要な看護技術を学び、高齢者や家族に対する実際の看護援助の方法を学ぶ。				
回	授業内容				授業方法
1	ガイダンス I. 老年看護学における看護技術の考え方 1. 老年看護技術とは 2. 老年看護の機能と看護技術の特徴 3. 生活機能の概念				講義
2	II. セラピューティックケア * 担当講師: 外部講師				講義
3	II. 老年期の看護過程 1. 老年期の看護過程の基本的な考え方 2. 看護過程の展開				演習 講義
4	III. 介護者・家族への対応技術 IV. 看護過程事例に沿った演習計画の立案(高齢者と家族への看護)				グループ・ワーク
5	IV. 演習計画立案グループ成果発表				グループ・ワーク発表
6	IV. 立案した看護計画に基づいたロールプレイグループワーク看護技術演習課題への取り組み * 演習技術項目 ・コミュニケーション ・食事(嚥下障害のある) ・排泄 ・活動、転倒 ・家族への看護 ・社会資源の活用				グループ・ワーク
7	IV. 立案した演習計画に基づいたロールプレイグループワーク看護技術演習取り組みの成果発表 * 各グループで、演習計画の1場面を取り上げ、ロールプレイを実施する。				グループ・ワーク発表
8	試験				
使用教材	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院				
参考文献	1. 老年看護学 概論と看護の実践 ニューヴェルヒロカワ 2. 老年看護学 高齢者看護の実践 ナーシング・グラフィカ⑦				
成績評価の方法	筆記試験90% 授業態度、グループ・ワーク参加態度、忘れ物、提出物の期限 10%				